



## CONTENTS

■平成 25 年度スポーツ振興支援事業・地域振興支援事業贈呈式が開催された  
■先輩からの便り紹介

■奨学生の声紹介  
■奨学生の年度別・出身高等学校別進学先  
■平成 26 年度奨学生募集

## シリーズ 第 17 回

この本をあなたにも薦めたい  
『民間防衛』 スイス政府 編

### 平成 25 年度スポーツ振興支援事業・地域振興支援事業贈呈式

# 高校部活動 2,500 万円 地域振興支援事業にも



奨学会は、去る 7 月 11 日、多治見市東町のセラミックパーク MINO で、平成 25 年度の贈呈式を行った。奨学会は平成 11 年設立後、積極的な活動をしている高等学校の運動部を対象に、毎年部活動費の贈呈を実施して来たが、昨年度より地域振興支援事業の一環として、高等学校文科系部活動への支援を開始。

贈呈式には来賓として岐阜県教育委員会松川禮子教育長をはじめ被支援校の部活動顧問、部長、監督など学校関係者ら併せて約 65 人が参加。伊藤理事長より各団体へ目録を手渡した。

最後に、被支援団体を代表して各務原西高等学校の浅井文英校長よりお礼の言葉があった。

### 平成 25 年度 (公財) 伊藤青少年育成奨学会 スポーツ振興支援事業・地域振興支援事業 被支援団体

#### ①スポーツ振興支援事業 (県内の高校・特別支援学校運動部およびスポーツイベントへの助成)

学 校 名	部 名	金額 (円)
岐阜高等学校	陸上競技	250,000
岐阜北高等学校	剣道	500,000
長良高等学校	硬式野球	680,000
岐阜総合学園高等学校	硬式野球	480,000
	男子ホッケー	500,000
県立岐阜商業高等学校	水泳	700,000
	バドミントン	450,000
岐阜各務野高等学校	硬式野球	400,000
岐阜農林高等学校	馬術	500,000
岐阜工業高等学校	バドミントン	500,000
岐阜本巣特別支援学校	アスリート	380,000
岐阜第一高等学校	ラグビー	300,000
城南高等学校	バスケットボール	300,000
池田高等学校	硬式野球	900,000
大垣北高等学校	卓球	210,000
大垣南高等学校	フェンシング	560,000
大垣商業高等学校	弓道	720,000
加茂高等学校	ボート	1,000,000
可児工業高等学校	陸上	500,000
可茂特別支援学校	サッカー	350,000
土岐商業高等学校	ウエイトリフティング	480,000
麗澤瑞浪高等学校	硬式野球	200,000
恵那高等学校	ソフトテニス	460,000
中津商業高等学校	スケート	500,000
	陸上競技	500,000
益田清風高等学校	弓道	240,000
飛騨神岡高等学校	登山	270,000
平成 25 年度全国中学校体育大会岐阜県大会		1,000,000
第 9 回恵那市ジュニア陸上競技記録会		100,000
合 計 (24 校・27 運動部+2 スポーツイベント)		13,930,000

#### ②地域振興支援事業 (県内の高校・特別支援学校文化系部および団体への助成)

学 校 名	部 名	金額 (円)
岐阜高等学校	書道	400,000
岐阜総合学園高等学校	箏曲	500,000
県立岐阜商業高等学校	吹奏楽	900,000
各務原西高等学校	吹奏楽	980,000
岐阜農林高等学校	演劇	600,000
山県高等学校	吹奏楽	900,000
岐阜工業高等学校	電子機械研究	320,000
岐阜盲学校	音楽	620,000
鶯谷高等学校	囲碁	200,000
大垣北高等学校	文芸 (かるた)	170,000
大垣特別支援学校	和太鼓	140,000
関高等学校	吹奏楽	940,000
東濃高等学校	ロボコン	200,000
東濃実業高等学校	吹奏楽	500,000
土岐紅陵高等学校	吹奏楽	660,000
土岐商業高等学校	吹奏楽	500,000
恵那南高等学校	吹奏楽	780,000
斐太高等学校	吹奏楽	780,000
飛騨高山高等学校	太鼓	600,000
第 41 回東海 4 県言語・聴覚・発達障害児教育研究大会岐阜大会実行委員会		100,000
神岡中学ソフトボールクラブ		100,000
大垣少年少女合唱団		300,000
合 計 (19 校・19 文化系部+3 団体)		11,190,000

#### 伊藤青少年育成奨学会設立からの事業費の実績 (平成 12 年度～)

単位: 千円

年 度	奨学金	スポーツ	国際交流	その他 (伊藤慈善賞を含む)	合 計
平成 12 年度	4,800	13,100	3,000	—	20,900
平成 13 年度	9,600	10,700	3,000	500	23,800
平成 14 年度	21,600	6,100	3,000	200	30,900
平成 15 年度	28,800	10,000	3,000	200	42,000
平成 16 年度	25,200	10,000	13,000	1,300	49,500
平成 17 年度	26,280	11,500	3,000	4,000	44,780
平成 18 年度	31,080	10,400	3,000	3,000	47,480
平成 19 年度	35,040	11,300	—	—	46,340
平成 20 年度	37,380	13,310	1,500	2,000	54,190
平成 21 年度	37,080	8,700	—	7,000	52,780
平成 22 年度	39,600	12,800	—	1,000	53,400
小 計	296,460	117,910	32,500	19,200	466,070

#### ●平成 23 年 4 月 1 日から公益財団法人となりました

年 度	奨学金支給事業	スポーツ振興支援事業	地域振興支援事業	合 計
23	39,600	13,100	2,000	54,700
24	39,240	12,400	14,110	65,750
25 (見込み)	42,840	13,930	11,190	67,960
合計(設立から)	418,140	157,340	79,000	654,480

#### ●恵那市中央図書館～伊藤文庫～について

当財団は、平成 19 年度事業として上記事業のほか恵那市へ図書館 (※) を寄贈しました。同時に 23,000 冊の書籍、運営費等 1,500 万円の寄贈を行いました。

※鉄筋コンクリート 2 階建て、延床面積 2,652㎡ (総事業費 10 億円)

**平井 優樹**岐阜高校  
岐阜大学医学部卒**医学と水泳を両立できた6年間に感謝。  
形成外科の分野で地元にも貢献できる医師を目指します。**

拝啓 春の日差しが待ち遠しい今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。

この度、3月をもって岐阜大学医学部を卒業します。6年間もの間、伊藤様には大変お世話になりました。本来、奨学金の給付は4年間であったところを6年間に延長して頂き感謝しきれぬほどです。

思えば6年前、多治見に赴き伊藤様とお会いした日のことが懐かしく思い出されます。お互いにスイマーということで、水泳の話で盛り上がりました。伊藤様が学生当時、県下で唯一50mを27秒台で泳ぐトップ選手であられたことに驚いたのを覚えております。また2年前、奨学金給付期間延長のお礼に伺った時も、お時間を割いてお会いして下さり、ありがとうございました。

去る2月9、10、11日に私は医師国家試験を受験いたしました。医師になるには医学部を卒業するだけでなく、この試験に合格することが必要です。毎年およそ9割の受験生が合格する試験であり、今年の合格発表は3月19日です。私も自己採点の結果では安心できる点数で試験を終えられたと思います。

私が医師を志したのは高校生の時です。私が水泳で体を故障するたびお世話になった地元の開業医の先生へのあこがれがきっかけでした。また、当時私は生物学に興味があり、今日ではノーベル賞受賞で有名になったiPS細胞の発想の原点である万能細胞の本を読んで、興味を膨らませていました。医師という仕事は、サービス業としてだけではなく、職人として技術を磨いたり、研究者として未知の領域を開拓する側面も持ち合わせています。私にとってはそのどれもが魅力的であり、医師としての第一歩を踏み出すことを、大変幸せに思っています。

医学部6年間の勉強はとても充実したものでした。教養科目は1年のみで、2年目からは早速、解剖実習などの専門科目が始まりました。1~2ヶ月で1つの科目をこなしていくので、そのたびに医学書などの教材を購入することになり、貴奨学会のご援助が大変力になりました。

最終学年には香港大学医学部への短期留学を経験しました。旅費や、現地での生活費に何ら心配することなく、アジア圏最高といわれる研究・教育現場に触れることができました。また、海外に初めて友人ができ、今でもEメールでやり取りをしています。この留学の経験が、今後の私の生き方、考え方に少なからず影響を与えることは間違いありません。

6年生の夏以降は、国家試験に向けて、いわゆる「受験生」

の生活が始まりました。試験勉強は、医師国家試験予備校が出版する問題集や、インターネットを利用した映像教材を使うのが主流で、私が試験のためにこなした教材は、積み上げればおそらく2mほどに達すると思います。もちろんこれだけの教材を短期間にそろえるには、やはりアルバイトだけでは厳しいものがあり、最後の最後まで奨学金をありがたく使わせて頂きました。

また、6年間を通して水泳部の部活動にも没頭できました。岐阜大学はスポーツの強豪校ではないので、指導者はいません。その分、選手自身がトレーニングを考え、自己管理する必要があります。そういった環境の中でも、私は毎年自己ベストを更新することができ、水泳に取り組むことが、学生生活の大きな楽しみの一つでした。最後のシーズンには広島県で行われた西日本医科学生総合体育大会にて100m自由形、200m自由形の大会新記録樹立での優勝を果たすことができました。周りの人は私の努力を称賛してくれましたが、私はそれ以前に好きなことに力を注げる環境に感謝をすることが大切だと思いました。

4月から私は、研修医として働く予定です。研修に選んだ場所は神戸大学病院です。住み慣れた岐阜を離れるのは心細いですが、私が専門にしたい分野を岐阜大学の関連病院で研修するのは困難なので、私は神戸大学病院を選びました。その分野は形成外科といいます。形成外科とは頭から足の皮膚や筋肉を専門に扱う外科であり、外傷やがんで失った体の部分の修正や、顕微鏡を用いての手などの細い血管、神経の縫合、火傷の治療、美容医療など多岐にわたります。ただ治すのではなく、よりきれいに、動きやすく治して患者さんの治療後の生活を豊かにするのが形成外科の理念です。残念ながら岐阜県内には形成外科の専門医は少なく、専門医を育成できる環境がないのが現状です。私は、これからの医療は、命を救うことだけでなく、それ以上のものが求められるようになると思います。もちろん岐阜県にも形成外科医の需要は高まってきます。何年も先のことになりますが、私が一人前になって力をつけて、医療をリードする立場になった時にはぜひ、拠点を岐阜に戻して、故郷の医療の発展に寄与したいと考えています。

最後に6年間、貴奨学会のお世話になり、心からのお礼を申し上げたいと思います。また、私も伊藤様のように、社会に大いに必要とされる人間になれるよう、日々切磋琢磨してまいります。

敬具

**鎌田 果歩**

大阪大学  
基礎工学部電子物理学科3年  
(恵那高卒)

**タイでの研修を通して自分が社会の一部であることを実感。社会のため、人のために頑張れる人になりたい。**

2年生の春休みに、学部のプログラム（基礎工学オーナーフラタニティ）で、タイに研修に行きました。海外に行くのも初めてでしたので、日本とは大きく異なる文化に触れることができとても良い経験になりました。「微笑みの国」と言われるようにタイの人達はみな温かく、目が合うとにっこり微笑んでくれました。タイの人達の合い言葉は「マイベンライ！（気にしないで、大丈夫という意味）」。どんなときでもマイベンライと言って明るく頑張っている姿を見て、私も元気をもらいました。

タイではトヨタやパナソニックなどの日本企業の工場見学をいたしました。タイはタイ人の人柄やインフラ整備が進んでいること、産業集積地であることから日本企業も数多く進出しています。現地でも働く日本人

の方のお話を聞く機会もあり、その中で、海外に出て初めて自分、自国を客観的に見られるようになったというお話がありました。自分を客観的に見たら、自分が社会の一部であることを実感し、社会のため、人のために働こうと思えたということでした。私も社会に出たら、人のために頑張れるような人間になりたいと思いました。人として成長するためにも、海外に身を置くのも魅力的だと感じました。

今回の海外研修で日本から出たことで、自分自身の視野も広がったと思います。自分の英語力の無さも痛い程実感しました。この刺激をこれからの学生生活の原動力の一部として、また新たな一年を頑張っていこうと思います。

**奨学会からのコメント** 「海外に出て初めて自分、自国を客観的に見られるようになった」という言葉は重い。日本人は日本の実像を知っているようで知らない。自国を理解することによって、世界の果てに行っても、軸足は日本人でいられる。どの国にも世界人という言葉はない。

**松岡良太郎**

東京外国語大学  
外国語学部3年  
(岐阜高卒)

**教養課程が過ぎ、いよいよ専門課程へ。安全保障問題や構造的な暴力についてなど、世界の平和問題への見識を深めたい。**

二年生時までは主に教養課程ということで、主専攻語であるヒンディー語に加えて、国際経済学や、中東政治、戦後史、構造的な暴力と、様々な分野について学んできました。それでもやはり一番比重を占めていたのがヒンディー語で、一週間のほとんどの時間をヒンディー語の予習と復習に充てていました。結果、必然的にヒンディー語に触れている時間が増え、一年生の時とは比べものにならないほど力がついたと思います。

そして三年生からはゼミでの研究が始まります。自分は平和構築について考えるゼミを選択しました。このゼミを選択した理由として自分が

安全保障問題や構造的な暴力といった事柄に大変関心を持っているということがあります。中でもセキュリタイゼーションは今までの大学生活の中でも何度も意識する機会があった自分の中でも特に関心の度合いが高いもので、これからの研究を通して更に考えを深めていきたいと思えます。また完全に平和な世界というものは実現可能なのか、そもそも平和の定義とは一体何なのかということについて仲間や教授とともに真剣に考え、その中で自分の意見や考えというものを形成していきたいと思っています。

**奨学会からのコメント** セキュリタイゼーションの意味は「金融の証券化」という経済用語として使われるが、こういう報告書には誤解を生まぬよう書くべき義務がある。絶対的な平和や平和の定義など若い柔軟な頭脳、感受性に許された大いなる難問。考え抜いて自らを鍛えてください。それを討議できる教授や仲間は君にとって代えがたい宝である。

**丹羽 哲也**

早稲田大学  
国際教養学部3年  
(岐阜高卒)

**向学心旺盛な海外の学友に囲まれ、勉学に励む留学生活。専門性の高い授業にも楽しみながらチャレンジしています。**

カナダの大学の授業を受けて、一番驚いたことは学生が皆必死に勉学に励んでいることです。日本の大学の授業では、ほとんどの学生がスマートフォンをいじったり、私語したりなど、あまり勉強に集中できる環境ではないし、やる気も学生からは感じるできません。カナダの大学の授業は毎週多くの課題をこなし、膨大な量の教科書を読まなければなりません。また Midterm や Final exam もとても難しいので、テスト前二週間はずっと図書館にいるという生活が続いていました。最初の二ヶ月は ESL という英語が第二言語である学生のための授業を受けなければならず、最初の授業からいきなり英語でプレゼンテーションをさせられたりと、課題も多く大変な授業でした。そしてその授業を合格す

ることができたら、正規の学生と同じ授業を受けることができます。早稲田大学のプログラムの規定により、三個取らなければなりません。僕は、Psychology、Linguistics、そして Economics を取りました。Linguistics は、ネイティブスピーカーがどういう口の動かし方で発音しているのか勉強できたので、自分の英語学習に大きく役立ちました。僕が今取っている授業の中では、Psychology が一番面白いと感じました。覚える用語はとても専門的で難しく、しかも膨大な量なのでついていくのに大変ですが、脳のどの分野が、精神や様々な感情をコントロールしているのか学習できるので、とても楽しいです。

**奨学会からのコメント** 明治期、先人は法律用語、科学用語等々漢字を駆使して英語の概念を翻訳、意識。それによって世界の学問を日本に居ながらにして学べ、日本の教育水準は上がった。日本人への報告書に言語学、心理学と書かない理由は？英国ではあまり短縮形は使わない。まして英語を母語としない人間に対して exam 等単語の省略もしない。

**高原 啓輔**

慶應義塾大学  
理工学部4年  
(斐太高卒)

**原子力発電より安全性の高い核融合による発電の研究に取り組んでいます。まずは大学院合格を目指します。**

昨年の12月に第一希望の研究室に配属されることが決定しました。その研究室は、プラズマを専門としていて、その知識をつかって、現在は主に核融合による発電の研究を行っています。私は高校3年生の時に、当時の物理の先生から簡単に核融合についての話を聞き興味をもちました。そして、大学への進学後、自分の学部に、核融合に携わることのできる研究室があると知り、今はその研究室に入ることができたことをとてもうれしく思っています。核融合発電は、実用化されるまでにはまだ何十年も時間がかかると言われていますが、現在の核分裂を用いた原子

力発電と比べ放射性廃棄物の量を大幅に減らすことができ、福島原発の事故のように、制御することができなくなる心配はありません。

この実現すればすばらしい技術に、学生という立場で貢献できることは少ないかもしれませんが、将来それに関連する仕事につくかどうかはわかりませんが、少しでも関わることができることに感謝して、研究していきたいと思っています。また、大学院の入学試験が6月から始まるため、TOEICなども含めて、しっかりと勉強し、大学院に合格できるようにがんばっていききたいと思います。

**奨学会からのコメント** 素人には核融合の凄さはわからないが、それでも放射性廃棄物がでるのか。そしてその廃棄物が自然に還元されるのが10万年かかるというなら、御免こうむりたいというのが正直なところ。福島の問題等若者に尻拭いさせるようだが藁にもすがる気持ち。



『民間防衛 一あらゆる危険から身をまもる一』  
スイス政府 編  
出版社：原書房

『民間防衛

一あらゆる危険から身をまもる一』

スイス政府 編

この本は、スイス政府が編纂し、各家庭に配布したものです。

「まえがき」には次のようにあります。

「今日では、戦争は国民と関係をもっています。国土防衛のために武装し訓練された国民一人一人には、「軍人操典」を与えられますが、「民間防衛」というこの本は、わが国民全部に話しかけるためのものです。この

二冊の本は同じ目的を持っています。つまり、どこからくるものであろうとも、あらゆる侵略の試みに対して有効な抵抗を準備するのに役立つということです。」

この一文からわかるように、この本は、一般人向けの「物心両面の武装マニュアル」です。

永世中立国であるスイスは、国民全員の、平和を守るための努力と負担と覚悟をもって成り立っているのです。

つねに「戦争」の影に目を向けながら平和

を維持しているスイスのあり方と対照的に、日本では「平和」という言葉だけがもてはやされています。

そんな世情に危機感をつのらせて、日本語版が発刊されて既に20年、戦後生まれが国民の8割を占める今も、この本は警鐘を鳴らし続けています。

まずは、「訳者あとがき」から、目を通されることをお勧めします。

奨学生の年度別、出身高等学校別進学先 (単位：人)

出身高等学校	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	合計
恵那	名古屋大(2人) 金沢大	大阪大 岐阜大 信州大(2人) 名古屋大	大阪大 名古屋大(2人)	高崎経済大 岐阜大(2人) 名古屋大 筑波大	16
恵那農業	名城大	名城大	—	慶應義塾大	3
中津	—	岐阜大富山大	三重大	—	3
中津商業	南山大	—	—	中京大	2
坂下	中部学院大	—	—	—	1
土岐商業	南山大	—	—	—	1
多治見北	慶応義塾大 同志社大 名古屋市立大	横浜国立大	愛知県立大 早稲田大 信州大	名古屋市立大 京都大 中央大 京都府立大	11
多治見	—	筑波大	—	—	1
中京	—	—	—	京都大	1
麗澤瑞浪	—	東京外国語大	—	—	1
可兒	—	—	名古屋大 岐阜大 大阪大	豊田工業大 名古屋工業大	5
加茂	愛知大	お茶の水女子大	—	千葉大	3
加茂農林	宮崎大	—	—	—	1
美濃加茂	—	東京大	—	—	1
関	一橋大 名古屋大	慶応義塾大	京都教育大	—	4
関商工	—	—	—	愛知大	1
武義	—	愛知教育大	—	静岡大	2
岐阜	—	中央大 岐阜大(2人) 東京外国語大 早稲田大	京都大 東京工業大 岐阜大	中央大 東京工業大 名古屋市立大 高知大	12
岐阜北	同志社大 名古屋市立大 筑波大	—	—	—	3
加納	新潟大	—	名古屋大	名古屋大	3
長良	名古屋大	—	愛知教育大	—	2
岐山	東京学芸大 南山大	岐阜大	—	神戸大	4
県立岐阜商業	中央大	中央大	—	中央大(2人)	4
岐阜農林	—	—	日本福祉大 筑波大	—	2
各務原西	—	—	—	岐阜大	1
岐阜女子	—	—	奈良女子大	—	1
大垣北	愛知教育大 東京大 金沢大 名古屋大	大阪府立大 富山大	名古屋大 京都大	静岡大 京都大(2人) 青山学院大	12
大垣東	—	—	—	同志社大	1
大垣南	岐阜大	—	—	—	1
大垣商業	早稲田大	—	名古屋大	—	2
大垣日大	静岡大	—	—	—	1
斐太	金沢大 慶応義塾大 名古屋大 愛知教育大	—	—	日本福祉大 新潟大	6
益田清風	—	—	名古屋大	—	1
一宮興道	—	名古屋大	—	—	1
菊里	—	—	愛知県立芸術大	—	1
藤枝明誠	—	—	同志社大	—	1
合計	33	25	25	33	116

平成26年度 奨学生募集中!

奨学金を通じて、本気で学びたい人を応援します

■ 選考の流れ



■ 支給金額・支給方法

支給月額 30,000円(自宅通学・自宅外通学とも)  
※返還の必要はありません  
支給期間 最長4年(平成26年4月~)但し医学部生は6年  
振込日 4、5、6、7、8、9月分 6月中旬  
10、11、12、1、2、3月分 12月中旬

■ 募集人員

大学生 30名程度(短期大学生を除く)

■ 応募資格

- 新1年生であること  
(平成26年4月 四年制大学へ入学される方)
  - 岐阜県出身または県内在住の方
  - 人物、学力ともに優れていること
  - 経済的理由により修学が困難であること
- 提出書類、選考基準等につきましては当財団ホームページ、事務局又は高等学校へお尋ね下さい。